

ブルーギルの初期発育段階について

横田彰子・久保喜計・細谷和海（近畿大農）

【目的】

ブルーギル *Lepomis macrochirus*（原産国：アメリカ合衆国）について、仔稚魚期に関する研究はほとんど行われていない。本研究は指標となる初期発育段階を明確にし、ブルーギル仔稚魚の初期生態を解明することを目的とした。

【材料と方法】

ブルーギルの卵は、2005年6月上旬から7月中旬まで近畿大学農学部キャンパス内の雨水調整池から採集し、研究室内で水温25度に設定して飼育した。本種仔稚魚の体形、卵黄、眼と体の黒色素胞、肛門、口、脊索屈曲、鰭、鰭条、筋節について観察し、スケッチを行った。発育段階は、Kendall（1984）の区分法を参考とした。

【結果】

ブルーギルの仔稚魚期における外部形態の変化には、卵黄の吸収、脊索末端の屈曲、鰭の形成が大きく関与していたので、これら3形質について観察を行った。卵黄は、肛門・口の形成や消化管の発達に伴い減少した。脊索は卵黄吸収が終了したのち、屈曲した。また鰭は、胸鰭、尾鰭、背鰭・臀鰭、腹鰭の順で発達した。

上記3形質の変化過程を総合的に組み合わせることにより、本種仔稚魚の発育段階区分の体系化を試みた。結果、卵黄仔魚期、前屈曲仔魚期、屈曲仔魚期、鰭条形成仔魚期、稚魚期の5期に区分することができた。